

岩見沢市長 様

岩見沢市教育委員会教育長 様

「岩見沢市いじめ調査報告書」の所見書（意見書）

令和8年2月18日に説明がありました「岩見沢市いじめ調査報告書」につきまして、対象生徒及び保護者として、以下の所見を伝えます。

今回の調査においては、飛び降りの事案の背景にいじめがあったか、学校及び教育委員会の対応は適切であったかの視点で調査をお願いしたところです。

まず、いじめの事案については、3点のいじめの認定は理解できたものの、今回の調査に関して中学■年生の本件事故の直近の調査に終わっていることが残念です。

息子は小学校1年生の時からいじめを受けていました。小学1年生の時には、下水道の工事現場に突き落とされる、公園の砂場に埋められるような嫌な思いを受けていました。小学3年生の時にはネックウォーマーを■に捨てられたり、下校時に友達から通行を妨害されたりするなど、いじめが続いていたことは間違いありません。また、「斜視」「ぎよろめ」「貯金箱はげ」などと容姿を馬鹿にする発言がたびたびあり、深く傷ついていました。息子はいじめのこわさから、学校のトイレを使用することすらためらい、小学校3年生まで学校でトイレを使うことはありませんでした。小学1年生のころからきりがなくらい嫌な思いをし続け、泣いて帰宅する息子を見て、私自身は心配で仕事ができない状況でもありました。

嫌な思いをする場面は中学校に入学してからも続きました。■部に入部しましたが、そこでもいじめを受け退部しました。息子が■の時、三者面談で学校に行くと、私の目の前で、息子が友達から「ばい菌」「病気がうつる」と言われていて、そのことは当時の担任に伝えました。■に入ったときに「障がい者はきらい」という差別的な発言を受けたとも聞いています。本件事故で入院し、退院後も、公園や道端であった中学生に中指を立てられるなどの嫌な思いが続いています。無断で写真を撮られるようなこともありました。報告書において、いじめが飛び降りの原因と特定することは難しいと書かれています。間違いなくいじめがあったことは強く伝えたいと思います。

また、報告書の記載にある「事実認定が困難な事実2」にある担任の先生の対応について

は、■■■■の授業中、■■■■の際に学習とは関係ない余計な話があり、学習指導がなされていないにもかかわらず、休み時間に友達と遊ぼうとすると「遊んでいないで勉強しろ」と理不尽な声掛けがあったと息子は言っています。耳元で話をされることが苦手であると担任には強く伝えていたにもかかわらず、授業中に余計な話を耳元で話され嫌な思いをしていました。報告書には担任が娘の話をする事についての調査で、担任には娘がいないことを理由に事実認定が困難とされていますが、授業には関係のない話が多くされたことは息子から聞いています。中学■■年生になってから好きだった■■■■も、苦手となりできなくなりました。校長先生との話の中で担任の不適切な指導を謝罪する場面もあったことから、やはり不適切な指導はあったと押さえています。

中学校のこれまでの不適切な対応もいくつもありました。怪我をしても学校から連絡がなく、授業中に火傷をしたのにとくに手当もなく帰ってきたことがありました。

なにより転落時の対応は納得ができません。学校から連絡があり、救急車や警察よりも先に私が現場に到着しましたが、息子は雨の中、傘をさしてもらえず、毛布ひとつかけられていませんでした。車の中から様子を見ている先生もいました。救急車で搬送のときには、担任の先生は救急車の助手席にのり、息子を見守ることすらありませんでした。搬送された病院では、心配でかけつけてくれた私の姉に対して先生が「家庭で何かありましたか」と、まるで家庭環境が原因かのような問いかけがあったことも許せません。

報告書の中に「連絡帳」の記載がありますが、■■■■から事故直前の■■■■までの「連絡帳」コピーが自宅にあります。ですから、報告書の記載内容には誤りがあり、学校は連絡帳を紛失したと考えられます。ただし、残された「連絡帳」の学校から家庭への欄は1日のみ事務連絡が書かれており、その他の日は白紙のままです。中学■■年生のときの担任は連絡帳だけではなく、こまめな電話連絡で学校の様子を伝えてくれましたが、中学■■年生の担任にはていねいな対応をしていただけなかったと感じています。

これまで、息子のことで学校にはたくさんの相談をしました。先生方はノートなどに記録を取っていたようですが、これらの相談記録はいったいどのようになっていたのでしょうか。一つ一つを丁寧に対応していただいたとは思えませんし、相談に対し適切に回答してもらった感覚はありません。中学校および担任の先生は責任逃れをしているようにも見えます。

報告書の中に息子が「死んでいるかもしれない」との表記がありましたが、これらはこれまでの嫌な思いの積み重ねであると思います。飛び降りだけがをして入院しているときに、息子が「学校が嫌だからいっしょに死のう」と言われたことがありました。■■■■学校には通えず、■■■■で学んでいます、やはり学校に対して許せない思いがあります。

今回の件で、息子は人間関係の不安さから[REDACTED]をあきらめました。退院後、中学校に登校したいという思いはあったものの、安心して通学できる環境を学校は用意してくれなかった点で不満があります。

これまでも岩見沢市において子どもが深く傷つくような重大ないじめがあったと聞いています。今回、息子が受けてきたようないじめは絶対になくしてほしいと思います。報告書に学校や教育委員会に対して再発防止策の提言が書かれていますが、教育委員会には市内すべての学校にこのことを徹底して指導していただきたい。いじめはどこでも起きることを前提に適切に対応してほしいと思います。学校からつらい思いをする子どもを二度と出さないでほしいと強く願っています。